

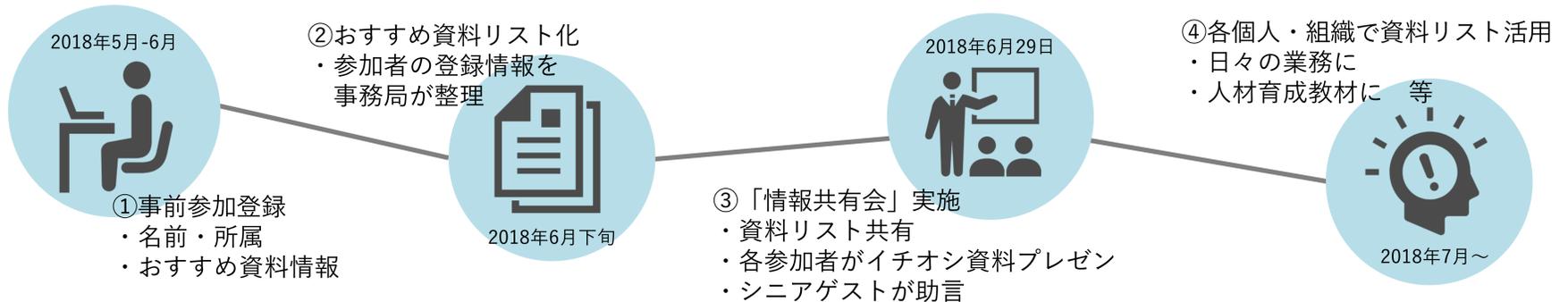
複数大学のURAらによる「研究推進・支援に役立つ資料リスト2018」共同作成の試み

川人よし恵・尾瀬彩子（大阪大学経営企画オフィスURA部門）、山田綾子（大阪大学法学研究科）



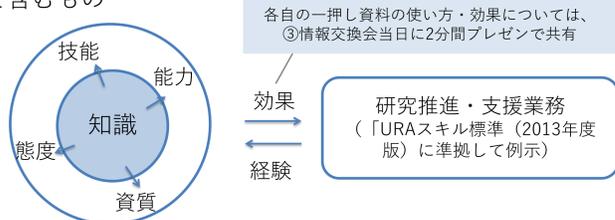
「複数大学のURAらによる共同作業のプロセス」を試行

第4回JINSHA情報共有会「研究推進・支援に役立つ資料リスト2018を作ろう
--視野を広げ、より良い仕事をするための知識とは」【「人文・社会科学系分野を入口に」編】の事前～当日～事後



①「おすすめ資料情報」登録の際に提示した条件

✓ 資料内容：良い仕事をするために必要と思われる、下図の左円の要素を含むもの



- ✓ 資料形態：書籍、論文、ウェブサイト、報告書、講演スライド等 (公開されている資料が対象)
- ✓ 言語：日本語または英語
- ✓ 分野：人社系研究推進・支援に何かしら関連づけられるもの※1 (人社系のみ限定はしない)

※1：③の「情報共有会」を、複数大学の人社系URAの連携により不定期開催しているJINSHA情報共有会の第4回として実施したため

②各参加者は以下の情報を登録、最終的に77件分の資料情報をリスト化できた

URAスキル標準に準拠した分類、書誌情報、主な内容・推薦理由・効果的な使い方など (最大200字程度)、資料形態、閲覧方法、言語、キーワード、入力者名・所属組織・職種

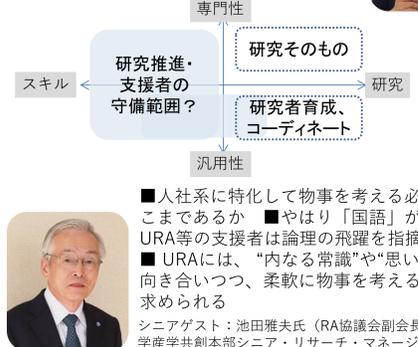
③情報共有会当日の様子とシニアゲストによるコメント

6月29日(金)15時-17時、大阪大学豊中キャンパス
参加者28名 (15機関からURA、事務職員、図書館職員等)



「情報共有会」における、一押し資料についての2分間プレゼン

シニアゲスト：三成賢次氏 (大阪大学経営総括理事、元 法学研究科長、元 大型科研究プロジェクト代表者)
■研究者/部局長/執行部といった立場によってURAへのニーズは異なる ■以下のような軸で、情報収集・提供の役割分担を考えてみてはどうか



④「研究推進・支援に役立つ資料リスト2018」をどう活用する？ (参加者アンケート※2より) ※2：2018年7月10日～24日実施、回答者19名 (回答率68%)

まずは自分が参照

- ・「これからちょうど取組む広報 (HPなど) に活用したい。」
- ・「時々思い出して参照する。」等

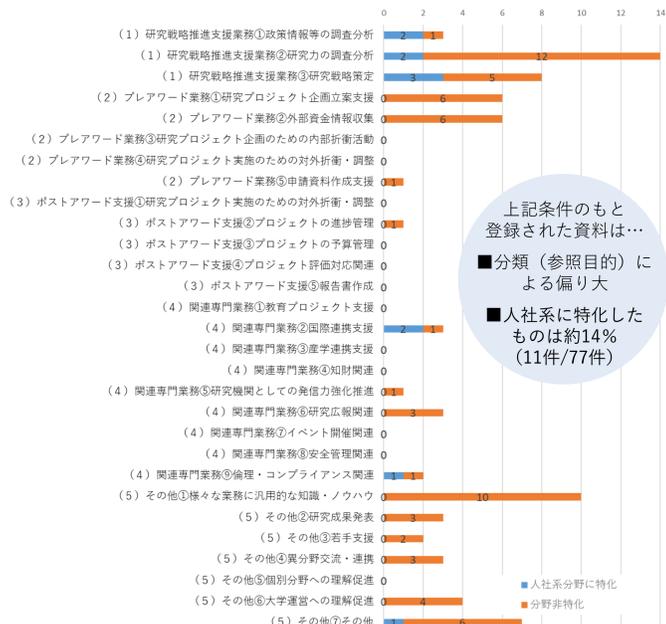
組織内でリスト共有

- ・自分の所属部署内で
- ・学内URA、研究支援職員で
- ・人社系部局長と
- ・所属組織の教員と

リストの書籍を購入

- ・「ちょうど科研費の計画調書作成支援をしていたので、ご推薦いただいた図書を購入し、早速実践しています。」
- ・「書籍類は購入の準備を行っています。」等

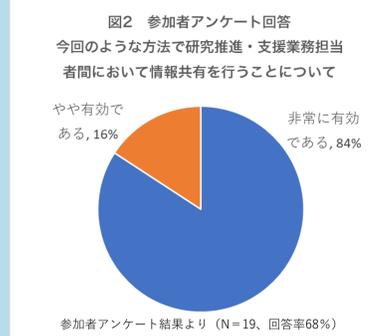
図1 2018年6月29日開催 第4回JINSHA情報共有会
研究推進・支援に役立つ資料リスト2018 の分類別・内容別の内訳
【「人文・社会科学系分野を入口に」編】 N=77、単位=件



分析・考察

1. 今回のような方法による情報共有の意義

- こうした手法には有効性・汎用性あり
- 参加者アンケートにおいて高く評価。
- 参加者以外から、「ジャーナルクラブ」という理系ゼミ方式と共通した有効性について指摘。
- 改善点等について以下のような意見あり
- 共有の対象とする資料のレベル感がわかりづらかった。
- グループディスカッションがあったら、なお良かった。



2. 資料リスト作成を通して見えてきたこと

- 研究推進・支援に必要な「知識」の現状
- ポストアワード支援のロジや、人材に関する情報など、暗黙知として個人に蓄積されているものが多数あるほか、「公開」されていないだけで組織内で形式知化・共有が進んでいるものなど、多様な知識のあり方が混在していると推察される。必要な知識の範囲も流動的である。
- 特定分野に特化した知識を含め、全体としては、知識の形式知化・公開化を進められる余地は大きい、知識の内容により適切な存在・共有の仕方があると考えられる。
- 「研究推進・支援に役立つ資料リスト2018」から浮かび上がった、研究推進・支援人材像
- 文章での表現力・論理的思考、社会人の常識的スキルを多くの参加者が重視→組織や立場が違って、研究推進・支援業務に関わる人材には、研究や知に対する横断的興味に加え、研究を客観的な視点で支える能力が必要とされる。
- ノウハウ的な内容に留まらない関心の広がり→組織や立場により、研究推進・支援業務の役割分担は異なるとともに、今後も変化していく可能性が大きい。
- 研究推進・支援人材 (特にURA) の育成に有効な視点
- 専門性と汎用性の双方の知識への目配り。
- 日々変化する状況やニーズを先取りし対応に努める態度。